

いつでも どこでも バーコード

バーコードは、線とスペースの組み合わせ配列で情報を表現する技術で、光の反射率の違いで読み取りします。

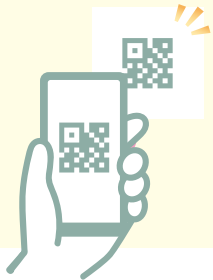
横方向のみに線を並べる形式の一次元バーコード（スタック式）と、平面全体に白黒のドットや模様を配列してより多くの情報を格納できる二次元コード（マトリックス式）があります。



マトリックス式 (二次元コード)

QRコード

- ・URLのリンク、連絡先の共有 など
- ・英数字、記号、日本語、バイナリデータ(画像や暗号化情報)を登録することができる



- ・箱が二つある方が上
- ・1つのセルの最小サイズは0.33mm以上が推奨されています。

スタック式 (一次元コード)

JANコード

- ・主に商品識別に使われる
- ・登録できる情報は数字のみ



バーコードの周囲にあるマージン(余白)は「クワイエットゾーン」とも呼ばれ、読み込みエラーを防ぐ目的で、柄や色が入らないエリアが確保されています。

POSレジ

(「Point of Sales」の略)

日本語訳は、「販売時点情報管理」。1970年代、誰でもすぐに会計できる仕組みとして導入されました。

単なる会計機ではなく、**何が、いつ、どこで売れたか瞬時に記録分析することができます。**

現代の、複雑な物流の最適化に欠かせません。

バーコードを作るときに気をつけるポイント

『レジを通らず、商品が全品回収に...』。

そうならないように、バーコードを作るときは読み取りエラーを防ぐポイントをおさえて作りましょう。

背景は白



- アルミ等の光る素材や透明の素材の場合、透過や乱反射で読み込みエラーを起こす。

JANコードの背景は不透明な白色に!

周囲に十分なクワイエットゾーンを作ることも忘れずに

赤色・薄い色・混色は避けて



- スキャナーは光の反射で明暗を判別するので、赤色や、黄・グレーなど、背景とのコントラストが弱い色も読み込めない色はNG。
- 印刷濃度が薄かったり、インクがズレたりする混色データは読み込み不良の原因に。

インクは単色・濃度も100%、黒や紺などの濃い色で作ると安心!

形状は適切に

- 下端のラインさえ一直線なら、上部の形はアレンジできる。
- 印字部分が歪んだり湾曲してしまうと読み込めない。

基本寸法の80~200%まで拡大・縮小が可能!

曲面ではなく、平らな面に配置する工夫が必要!

